

## 空中給油機（KC767）が小牧に配備された

—騒音、利権……海外派兵の本格化などなど 問題はこれから

二月二十九日に空中給油輸送機が小牧基地に正式に配備され、二号機も三月八日に配備されました。一年間三度延期された給油機配備がおこなわれたのです。小牧基地では給油機をみる事が出来ます。

四月三十日からは試験飛行がはじまりました。原則一日二回、週八回を限度におこなわれます。日本海上空では戦闘機への給油もおこなわれます。今後一年間は実用試験を飛行開発実験団が行い、その後新設される飛行隊が一年間運用試験を行って正式に運用開始されます。二年間の試験期間中に残り二機も配備される予定で、正式運用時には四機体勢になります。

新しい飛行機の運用で騒音の拡散も問題になる可能性もあります。防衛省はC・130よりも騒音は少ないと説明しています。県は様子を見るようです。試験飛行の回数だけをみれば当面はそれほどではないかもしれませんが。ただ周辺での騒音の広がりはまだわかりません。四機体勢になっての本格運用になったときは、飛行回数は大幅にふえることになり、訓練と、任務での飛行でトータルには騒音がひどくなるのは確実です。

名古屋高裁でのイラク派遣違憲判決にもかかわらず、小牧基地の海外派兵拠点の強化が一層進むことになりま

す。二月二十九日。配備当日には、小牧基地への申入れを行ってから、豊山町の神明公園で飛来の様子を

## アメリカの給油機問題

—日本にとって大問題に

小牧配備と同じ二月二十九日、アメリカの次期給油機が発表されました。ボーイングのKC767は採用されず、エアバスのA330ベースのノースロップ・グラマンKC-30Aが採用されたのです。ロッキードは異議申し立てを行いました。逆転は難しい見込みです。性能面でKC-30Aが勝っているのに加え、ロッキードと軍との癒着の発覚などで当初の予定がひっくりかえされたものです。グラマン側も産軍複合体としてあるのは当然です。再検討に一年間もかかったのは水面下での激しい政治的動きがあったのはまちがいありません。

今回の決定は日本に大きな影響を与えます。日本が配備をはじめたKC-767は世界中で日本とイタリヤの計八機しかありません。アメリカ軍との共通運用はできなくなったのです。さらに、ボーイングはベース機体の767型機も売れ行き不振で製造打ち切りの意向です。そうなれば、日本はメンテナンスなどかなりの負担が強いられます。航空機製造でボーイングと一体化している、三菱や川崎などの軍需産業のために何も検討せずに導入を日本は決めたのです。国家財政（つまり税金）に膨大な無駄な負担を与えても、日本版産軍複合体の巨大利権を守ろうというのです。

第二次大戦後アメリカ社会に大きな影響を与えた産軍複合体の問題が日本でもアメリカと結びつきながら表面化し大きな問題になりました。

（早見）



みていました。航空ファンが数十人カメラを持って待っていました。こうした光景はめずらしくありませんが、新聞報道などで知った地元の人々の姿もみえました。小さな子どもをつれた人もいて、「大きな飛行機だね」などと話しかけていました。そうした光景だけをみれば旧名古屋空港のターミナルから旅客機などを見ていた光景とあまり変わりません。しかし、対象は軍用機です。それも日本が海外で戦闘行動を行うこともできるという飛行機です。海外で子どもたちや民衆を苦しめている戦争に日本も本格的

に参加するために飛行機なので

す。私たちは、小牧基地の果たしている役割をもっと知らせていくと同時に反対の声を強めていかなければならないと思います。

二十三日には去年に続いて、大行進を行いました。今回は三菱重工への申入れも行いました。隣接する三菱も含めて私たちの生活する地域から軍事強化の動きを止めていきましよう。